

目次

1 はじめに.....	1
2 構想の前提.....	3
2-1 東大阪市の概要.....	3
2-1-1 概要・沿革.....	3
2-1-2 特徴.....	3
2-1-3 人口推移.....	4
2-1-4 産業.....	4
2-2 上位計画・関連計画.....	5
2-2-1 上位計画との関連.....	5
2-2-2 子ども読書活動推進計画との関連.....	5
2-2-3 複合施設における計画との関連.....	6
2-3 図書館の現状.....	7
2-3-1 概要.....	7
2-3-2 電子図書館.....	9
2-3-3 利用状況.....	9
2-3-4 蔵書数及び蔵書構成.....	17
2-3-5 各サービス実施状況.....	20
2-3-6 第一次構想の進捗.....	22
2-3-7 関連施設.....	23
2-4 同規模自治体・望ましい基準との比較.....	24
2-4-1 望ましい基準との比較.....	24
2-4-2 同規模自治体との比較.....	25
3 市民ニーズの調査.....	27
3-1 アンケート調査.....	27
3-1-1 全体の実施概要.....	27
3-1-2 一般市民.....	27
3-1-3 子育て層.....	27
3-1-4 学校関係者（教職員）.....	27
3-1-5 学校関係者（児童・生徒）.....	27
3-1-6 就業者.....	27

4	課題と今後の検討事項	28
5	コンセプト：○○○○○○○○○	32
5-1	基本的な考え方	32
5-2	各図書館のこれからの在り方	32
5-3	既存施設の活用	32
6	サービス方針.....	33
6-1	基本サービス	33
6-2	特色あるサービス.....	33
6-2-1	永和図書館.....	33
6-2-2	花園図書館.....	33
6-2-3	四条図書館.....	33
6-3	特定の属性・ニーズを持つ利用者へのサービス	33
6-3-1	世代ごとのサービス	33
6-3-2	子育て支援サービス	33
6-3-3	学校連携サービス.....	33
6-3-4	ビジネス支援サービス.....	34
6-3-5	読書バリアフリーサービス	34
7	実施スケジュール	35
	資料編.....	36

1 はじめに

本市では、平成 27 (2015) 年 3 月『東大阪市立図書館基本構想』(以下「第一次構想」という。)の策定に至るまで、市立図書館のあり方について、長い年月をかけて検討、議論を重ねてきた経緯があります。

昭和 22 (1947) 年に布施市立図書館(現在の永和図書館)からスタートした図書館サービスは、布施市、河内市、枚岡市の合併による市域及び奉仕人口の拡大により、昭和 59 (1984) 年には 1 館 3 分室体制へと拡大しました。

平成元(1989)年、「東大阪市図書館整備計画に関する調査報告書」では、市の規模に相応しい図書館サービス網を形成するため、市内 7 つのリージョン区にそれぞれ 1 館ずつ図書館を設置する 7 館構想が打ち出されました。これは当時まだ存在していなかった文科省の「公立図書館の設置及び望ましい基準(平成 13 年文部科学省告示第 132 号)」を満たす施設配置の考え方であり、東大阪市立図書館が国に先がけて、市民のための独自のサービス水準の目標を持っていたと言える内容でした。

しかし、平成 4 (1992) 年、相当規模の花園図書館が開館、平成 8 (1996) 年には市内に国内最大規模の公共図書館となる大阪府立中央図書館が整備されることとなり、平成 7 (1995) 年「新図書館網整備計画基本構想」において、旭町図書館(現四条図書館(平成 9 年設置))を含んだ 3 館 2 分室と移動図書館による図書館サービスの提供へと、大きく方向転換しています。

その後、11 年が経過した平成 18 (2006) 年には社会情勢の変化に応じ、これからの図書館のあり方を検討する必要があると考え、12 月に花園図書館長より、図書館協議会に「これからの東大阪市立図書館について」諮問がなされました。

これを受け、図書館協議会の 1 年半による調査・検討の結果、平成 20 (2008) 年 6 月には、7 館体制に立ち返る必要性を説きつつも、厳しい財政状況下においては直ちに「大規模な 7 館構想」を復活させるわけでは無く、「各地域の特色を活かした真の全域サービス」を実現することが責務であるとする答申が出されます。

このような経緯の中で、平成 27 (2015) 年 3 月、市立図書館全体の機能・サービス等の在り方を整理し、3 館 2 分室体制の中で、再整備される永和図書館・新東部地域図書館(現四条図書館)がどのような機能・サービスを担うべきかを検討するため、第一次構想を策定しました。

東大阪市立図書館はこの第一次構想に基づき、各地域での特色あるサービスの実施のほか、生涯学習の場として学習活動の振興と文化の発展に寄与してきました。

しかし、令和 2 (2020) 年、新型コロナウイルス感染症拡大による全国的な図書館の長期休館や、それを補う電子図書館等の DX (デジタルトランスフォーメーション) サービス

の開始など、第一次構想策定時には予見できなかった社会の変化が発生しています。

また、第一次構想期間中に永和図書館の移転が完了し、四条図書館も児童相談所との複合施設として新たに整備されることが決まり、第一次構想策定から9年という月日の中で、今の時代に求められる市立図書館の役割と、各図書館における特色あるサービスを新たに検討する時を迎えています。

こうした背景から、『第二次東大阪市立図書館基本構想』（以下「第二次構想」という。）では、第一次構想で進めてきたサービスについて、残された課題や新たな課題を整理し、現在の社会情勢に即した市立図書館全体のサービス網やあり方を改めて検討します。そして、今後整備される四条図書館の機能やサービスについても検討の上、時代の変化に適応したサービスの取り組みと、地域の皆様に親しまれる図書館整備の指針としてまいります。

2 構想の前提

2-1 東大阪市の概要

2-1-1 概要・沿革

東大阪시는、昭和 42 年 2 月 1 日、布施市、河内市、枚岡市が合併して発足しました。

大阪府の東部、河内平野のほぼ中央部に位置しており、西は大阪市、南は八尾市、北は大東市、東は奈良県と接しています。東の奈良県との境には生駒の山並みが連なり、豊かな自然に恵まれた都市でもあります。

人口は令和 5 年 8 月現在で約 48 万 6,000 人であり、政令指定都市である大阪市及び堺市に次いで府内では第 3 位の人口規模です。平成 17 年に中核市に指定されました。

2-1-2 特徴

■ラグビーのまち

花園中央公園に隣接している「東大阪市花園ラグビー場」は、昭和 4 年に日本発のラグビー専用グラウンドとして整備されたラグビー場で、世界に知られるラグビーの聖地となっています。以前は「近鉄花園ラグビー場」として親しまれていましたが、平成 27 年に「東大阪市花園ラグビー場」として新たなスタートを切りました。

ラグビーをはじめとするスポーツが果たす役割に着目し、スポーツを活用したまちづくりに取り組んでいます。

■モノづくりのまち

市内の製造業の事業所密度は 1k m²あたり 115.2 で、全国 1 位を誇っています。モノづくりの環境が身近にあるまちで、小さな町工場から生み出される製品は、確かな技術で全国や世界で活躍しています。

「モノづくりのまち」として知られる東大阪시는、令和 4 年 10 月から放送された連続テレビ小説『舞い上がれ!』の舞台にもなっています。

■大学のまち

市内には、大阪樟蔭女子大学、大阪商業大学、近畿大学、東大阪大学の 4 つの大学があり、約 3 万人の学生が通っています。

市内大学と本市の間では包括連携協定を締結しており、まちづくり、教育、文化、産業振興、人材育成などにおいて協力し、双方の資源を活用した事業に取り組んでいます。

■文化のまち

東大阪市は、司馬遼太郎氏や田辺聖子氏など、著名な作家とゆかりの深いまちです。市内には、司馬氏が住んでいた自宅と隣接地に立つ安藤忠雄氏が設計した司馬遼太郎記念館があります。また、田辺氏の卒業した樟蔭女子専門学校、現在の大阪樟蔭女子大学の図書館内には、田辺聖子文学館があります。

令和元年9月には東大阪市文化創造館が開館し、文化芸術の創造と発信の拠点となっています。

2-1-3 人口推移

東大阪市の人口は、昭和50年をピークに停滞し、平成2年から減少しはじめ、今後も減少傾向が続くと予測されます。特に年少人口、生産年齢人口の減少が進み、そのペースは大阪府や全国よりも早いことが予測されており、労働力の減少による産業衰退や、地域を支える力の弱まりなど、身近な場面で様々な影響が表れてくることが想定されます。

中でも子どもや若い世代が他の自治体へ転出する傾向にあり、保育環境の充実や子育て支援への取り組みを通じて、若い世代が安心して自分らしく子育てできる環境が求められています。若者にとって魅力あるまちづくりなどを通じて、若者や子育て世代に選ばれるまちになるよう、取り組みを推進することが必要とされています。

高齢化率は年々上昇しており、とくに高齢者単身世帯が増加傾向にあります。高齢者の生活を地域で見守り、支えあう取り組みが求められ、高齢者が健康を維持し、住み慣れた地域で元気に活躍できる環境づくりが望まれています。

2-1-4 産業

「モノづくりのまち」として知られる東大阪市は、高い技術を持った工場が多数集まっている一方で、近年は製造業事業所数が減少傾向にあり、ピーク時は1万か所以上あった事業所数は現在6割程度まで減少しています。製造業だけでなく、その他の事業所も減少傾向にあり、就業者の減少や地域経済への影響が懸念されます。

※2-1 東大阪市の概要に記載している現在の文章は、上位計画等を参考に記述しています。詳細なデータや数値等は、本構想策定時点の情報に更新予定です。

2-2 上位計画・関連計画

2-2-1 上位計画との関連

『東大阪市第3次総合計画』は、令和2年7月に市の最上位計画として策定されました。将来都市像を「つくる・つながる・ひびきあうー感動創造都市 東大阪ー」として、「必要なものは何でもつくりだすモノづくりの精神と、ラグビーの持つ団結力やさすがしさをまちづくりの理念として継承しながら、東大阪市に携わるすべての人の力」による感動創造都市の実現をめざしています。

市長と教育委員会が教育施策の方向性を共有し、一致して施策を進めることを目的に設けられた『東大阪市教育行政に関する大綱』（平成27年策定、令和元年11月一部改訂）では、「変化の激しい社会の中で、一人ひとりが自立して生き抜く力を持ち、社会で活躍すると同時に、豊かな心を持って、様々な人との絆を深めながら人権尊重にねざした社会」をめざすべき教育の姿としています。

その具体的な施策として『第2期東大阪市教育施策アクションプラン』（令和2年3月策定、令和5年3月改定）が策定され、誰もが生涯を通じて学び、自己の内面を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、図書館をはじめとした社会教育施設の整備やサービスの充実を推進していくことを掲げています。

また、学校図書館支援事業として、学校図書館教育の強化を図り子どもたちの読書活動の充実につなげることも目標としています。

本構想では、図書館としての基幹サービスである市民への情報提供を基盤としながらも、これらの上位計画で掲げる市のめざすべき姿の実現を見据え、図書館の方向性やサービスを検討します。

2-2-2 子ども読書活動推進計画との関連

『第2次東大阪市子ども読書推進計画』（平成31年）は、前構想で掲げている子育て支援サービスや学校連携などを通して、乳幼児期から東大阪市への愛着を育み、子どもたちの自主的な読書活動を推進するために策定されました。対象期間は5年間であるため、令和6年3月に新しく『第3次東大阪市子ども読書推進計画』が策定されます。

子どもの読書活動推進と図書館は、子どもたちが読書に親しむ環境を整えるために密接に連携する重要な役割を果たしています。図書館は、子どもたちが好奇心を満たし、興味を持つ本を見つける手助けを行う場であり、おはなし会などの親子や児童を対象としたイベントの開催なども含めて読書を楽しむ機会を提供しています。そのほか、学校図書館への学校司書配置、電子図書館サービスなどにおいても各学校と密に連携し、読書活動の推進に向けた取り組みを進めています。

本構想においても、図書館の資源や活動を活用しながら、子どもたちにとって楽しみながらも有益な読書体験を提供できるよう、関連サービスを検討します。

2-2-3 複合施設における計画との関連

令和5年2月には、『東大阪市公共施設再編整備計画』において、児童相談所機能と四条図書館を複合施設として整備することが決まりました。児童相談所に関連する『東大阪市新たな児童福祉行政の基本方針・児童相談所設置計画』（令和5年3月）では、東大阪市において児童相談所という新たな機能を設置することによる、児童福祉行政の今後のあり方、方向性を定めています。この方向性に基づき『東大阪市児童相談所整備基本構想』（令和5年3月）では、児童相談所、子ども家庭総合支援拠点をはじめとした複合施設の基本理念や整備コンセプトを掲げました。

さらに、令和6年3月には『東大阪市児童相談所及び図書館整備に係る基本計画』を策定し、今後四条図書館の整備も具体化されていきます。

第二次構想では、こうした児童相談所及び図書館整備に関する計画と整合を図ったうえで、四条図書館の方向性やサービス、複合施設内における相乗効果を生むサービスの検討が必要です。そして、四条図書館を新しく整備することを契機として、市立図書館全体のサービスも見直し、新たな東大阪市立図書館のあり方を検討します。

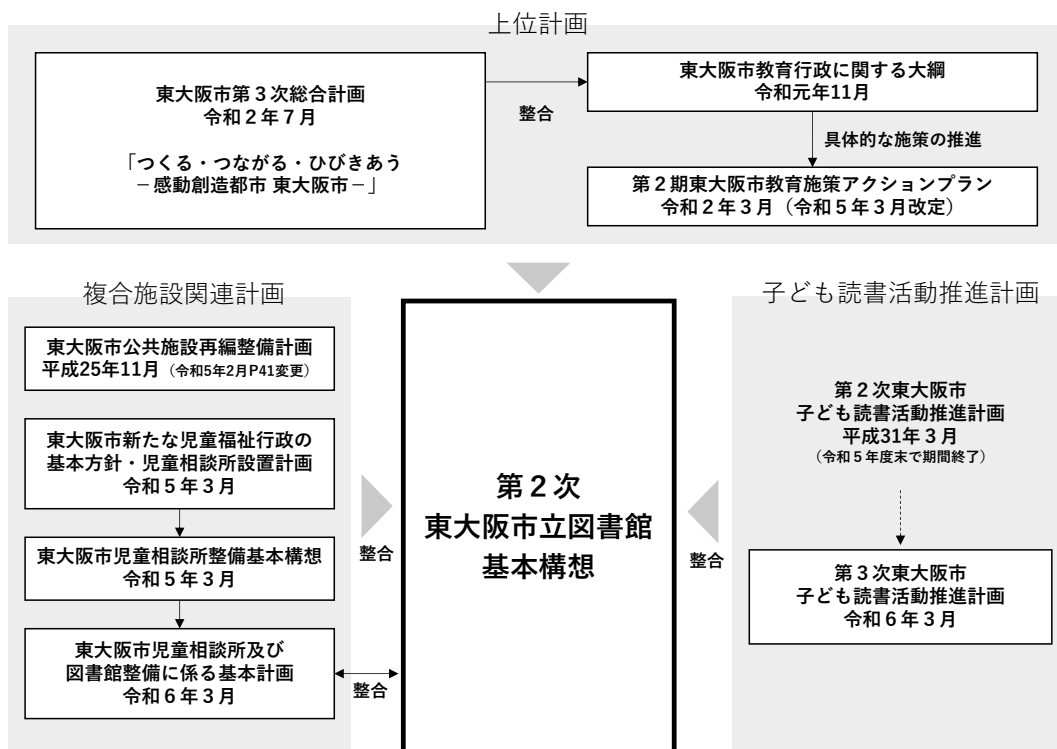


図 上位計画及び関連計画と図書館基本構想の位置づけ

2-3 図書館の現状

2-3-1 概要

現在の東大阪市立図書館は、永和図書館、花園図書館、四条図書館、石切分室、大蓮分室の3館2分室と移動図書館2台によって、サービスを提供しています。

永和図書館は、3市が合併する以前の昭和22(1947)年11月に布施市立図書館として開設され、昭和32(1957)年2月に永和図書館となりました。平成24(2012)年12月からは暫定施設でサービスを継続し、その後、令和2(2020)年5月に商工会議所との複合施設として移転し、現在は河内永和駅前に立地しています。館内にはビジネス支援コーナーやビジネス専用のレファレンスカウンターを設置しています。また、現在は中央館としての役割を持ち、市立図書館全体の図書館サービスを支えています。

花園図書館は平成4年に開設し、永和図書館が中央機能を持つまでは、花園図書館が中央館としての役割を担っていました。郷土資料の収集・保管も3館の中で最も多く、館内には司馬遼太郎に関する資料コーナーを設置しています。永和図書館、四条図書館は複合施設であるため、市立図書館の中では唯一の単独施設です。

四条図書館は、平成9(1997)年に開設した旭町図書館が耐震性の問題から閉館となり、平成28年6月に介護老人保健施設「四条の家」旧東診療所1階を改装して移転、移転後「四条図書館」に名称変更され開館しました。永和図書館や花園図書館に比べると面積規模の小さな図書館ですが、安岡正篤コーナーや子育て支援コーナーを設置しており、限られたスペースで企画展示や読み聞かせなどイベントも実施しています。

分室は、石切公民館内にある石切分室と、幼稚園舎の跡地利用で開設された大蓮分室の2室があり、小説や趣味の本を中心に資料提供を行っています。

移動図書館は、「ウメ号」「キキョウ号」の2台で、市内47か所のステーションを月に2回巡回しています。

これらのほか、令和3(2021)年4月には電子図書館サービスを開始しました。電子図書館サービスについては2-3-2でも触れますが、同年7月には電子図書館サービスの学校連携を開始し、こどもの読書活動推進にも貢献しています。

■ 永和図書館

所在地	永和 2 丁目 1 番 1 号 (東大阪商工会議所会館 1 階部分)
延床面積	1,300.47 m ²
構造	鉄骨 (地上 4 階)
開館時間	午前 9 時～午後 9 時
休館日	図書整理期間
施設内容	一般開架、児童開架、新聞・雑誌、郷土・行政資料、CD、塚本邦雄コーナー、慈雲尊者コーナー、ビジネス支援コーナー、録音室兼対面朗読室 その他

■ 花園図書館

所在地	吉田 4 丁目 7 番 2 0 号
延床面積	2,301.87 m ²
構造	鉄筋コンクリート (地上 3 階/地下 2 階)
開館時間	午前 9 時～午後 9 時
休館日	毎週火曜日 (但し、その日が国民の祝日等の場合は開館) 図書整理期間
施設内容	一般開架 児童開架 新聞・雑誌 郷土・行政資料 ビデオ・CD 司馬遼太郎コーナー 録音室 対面朗読室 視聴覚室 その他

■ 四条図書館

所在地	南四条町 1 番 1 号 (東部地域仮設庁舎 1 階部分)
延床面積	689.3 m ²
構造	鉄筋コンクリート (地上 5 階)
開館時間	午前 9 時～午後 9 時
休館日	毎週月曜日 (但し、その日が国民の祝日等の場合は開館) 図書整理期間
施設内容	一般開架 児童開架 新聞・雑誌 郷土・行政資料 CD 安岡正篤コーナー 子育て支援コーナー その他

■ 石切分室

所在地	北石切町 1 番 7 号 (石切公民分館内)
延床面積	90 m ²
構造	鉄筋コンクリート (地上 2 階)

開館日・開館時間	毎週水・土・日曜日（但し、国民の祝日等、公民分館休館日、年末年始は除く）／各曜日とも、午前9時～午後5時
----------	--

■大連分室

所在地	大連北4丁目3番25号
延床面積	626.5 m ²
構造	鉄骨平屋
開館日・開館時間	毎週水・木・土・日曜日（但し、国民の祝日等、月末日、年末年始は除く）／各曜日とも、午前9時～午後5時

■移動図書館

車名	キキョウ号	ウメ号
図書積載冊数及び設備	3,000冊 リフト（1996年購入）	3,000冊 リフト（1999年購入）
巡回	市内47ステーション 月2回	

2-3-2 電子図書館

東大阪市では「ひがしおおさか電子図書館」を令和3年4月に導入し、電子図書館サービスを提供しています。コンテンツも非常に充実しており、導入当初から日本最大級の蔵書がある電子図書館として広報活動を行い、利用促進を図ってきました。

電子図書館サービスでは、学校連携の取り組みの一つとして、市立小中学校や市立高校で利用できる環境を整えています。とくに市立小中学校では、全児童生徒がタブレットを用いて電子図書館を利用できるようIDを付与し、子どもたちの読書環境の充実にも大きな役割を果たしています。

これらの学校連携の取り組みを含む子ども読書環境の充実につながる多くの活動が評価され、令和5年4月23日に「子供の読書活動優秀図書館」として文部科学大臣表彰を受けました。

令和4年度からは、新たなサービスとして児童書を対象とした読み放題コンテンツを導入しています。読み放題コンテンツは、同時に何人でも同じ書籍が読めるため、予約をして順番待ちをする必要がありません。多くの児童生徒が本を読めるように、さらに学校で利用する以外にも幅広く利用されるように、工夫を続けています。

2-3-3 利用状況

貸出件数及び貸出人数は、新型コロナウイルス感染症が拡大した令和元年度以降、減少

傾向にあります。また、令和4年度の年間有効登録者数は約3万2,000人、市民利用率は6.6%であり、日常的に図書館を利用している人口が少ない状況です。10年前の平成25年度の市民利用率8.4%からみても、利用が減少していることが分かります。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により図書館が一時的に休館したことも踏まえ、前述のとおり令和3年4月から電子図書館サービスを導入しています。サービス開始当初の令和3年度は約3万4,000点の電子書籍を購入し、令和4年度末時点では約6万9,000点を所蔵しています。令和4年度の電子図書館の貸出件数は、約23万1,000件、登録者数は約3万6,000人です。令和4年度の紙の本と電子書籍の貸出件数を合わせると、電子図書館導入前の利用を大きく上回ります。来館する必要が無く、いつでもどこでも借りられる電子図書館の利便性等から、新たな利用が生まれている状況です。

各館の貸出件数、貸出人数は、令和元年度までは花園図書館が最も多く、令和2年に永和図書館が移転してからは、永和図書館の利用が最も多くなっています。永和図書館が駅前立地し、利便性が高くなったことが影響していると考えられます。

表 各種指標の推移

No.	項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	備考
①	人口（人）	504,822	502,727	500,067	498,904	496,720	495,180	493,490	490,381	488,490	486,464	
②	年度内有効登録者数（人）※1	42,274	41,900	42,232	40,898	40,389	39,860	36,961	30,752	31,243	32,188	
③	貸出件数（件）	1,963,940	1,896,762	1,939,536	2,002,424	2,028,650	2,066,998	1,759,009	1,578,196	1,584,336	1,788,780	
④	貸出人数（人）	443,256	463,626	488,895	491,737	498,363	500,563	420,263	374,992	376,655	432,586	
⑤	蔵書資料数（点）	760,579	720,816	713,042	752,612	782,212	796,713	806,735	824,023	842,443	864,448	図書、雑誌、視聴覚資料
⑥	年間購入冊数（冊）	43,055	42,206	42,103	42,603	41,705	40,158	38,811	38,462	30,933	30,420	図書等（雑誌・視聴覚資料・新聞・電子書籍等は除く）
⑦	資料費（千円）	63,673	65,673	65,504	65,636	65,634	65,633	66,241	66,849	65,633	66,850	図書・雑誌・視聴覚資料・新聞
⑧	図書費（千円）	52,609	54,219	53,766	54,295	54,580	54,889	55,079	55,718	52,113	58,355	図書等（雑誌・視聴覚資料・新聞・電子書籍等は除く）
⑨	電子図書館図書費（千円）	-	-	-	-	-	-	-	121,680	55,000	119,980	電子書籍等補正予算分
⑩	図書費計（千円）	52,609	54,219	53,766	54,295	54,580	54,889	55,079	177,398	107,113	178,335	
⑪	図書館運営費（千円）※2	438,398	395,167	431,545	450,624	439,794	438,424	615,967	637,660	568,451	640,205	
⑫	市民利用率（％）	8.4	8.3	8.4	8.2	8.1	8.0	7.5	6.3	6.4	6.6	年度内有効登録者数／人口×100
⑬	利用者1人当たりの貸出件数（件）	46.5	45.3	45.9	49.0	50.2	51.9	47.6	51.3	50.7	55.6	貸出件数／年度内有効登録者数
⑭	市民1人当たりの貸出件数（件）	3.9	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	3.6	3.2	3.2	3.7	貸出件数／人口
⑮	市民1人当たりの蔵書資料数（件）	1.5	1.4	1.4	1.5	1.6	1.6	1.6	1.7	1.7	1.8	蔵書資料数／人口
⑯	市民1人当たりの資料費（円）	126.1	130.6	131.0	131.6	132.1	132.5	134.2	136.3	134.4	137.4	資料費／人口
⑰	市民1人当たりの図書費（円）	104.2	107.8	107.5	108.8	109.9	110.8	111.6	113.6	106.7	120.0	図書費／人口
⑱	市民1人当たりの図書費(電子図書館含む)（円）	-	-	-	-	-	-	-	361.8	219.3	366.6	(図書費+電子図書館図書費)／人口
⑲	市民1人当たりの図書館費（円）	868.4	786.0	863.0	903.2	885.4	885.4	1,248.2	1,300.3	1,163.7	1,316.0	図書館運営費／人口
⑳	購入図書の平均単価（円／冊）	1,221.9	1,284.6	1,277.0	1,274.4	1,308.7	1,366.8	1,419.2	1,448.7	1,684.7	1,918.3	図書費／年間購入冊数
㉑	蔵書回転率（回／件）	2.6	2.6	2.7	2.7	2.6	2.6	2.2	1.9	1.9	2.1	貸出件数／蔵書資料数
㉒	市民1人当たりのサービス効果（円）※3	3,885.2	4,060.8	4,090.0	4,211.9	4,459.5	4,820.1	3,810.3	3,361.9	4,300.4	5,737.8	(平均単価×貸出件数-図書館運営費)／人口

出典：『図書館年報』（平成25年度統計～令和4年度統計）

※1 当該年度内で1回でも利用のあった登録者の数

※2 図書館運営費＝図書館指定管理委託料＋図書館費（市）

※3 図書館の貸出サービスを、図書館がなくて市民1人ひとりがある図書を購入したものと仮定して金額に換算したもの

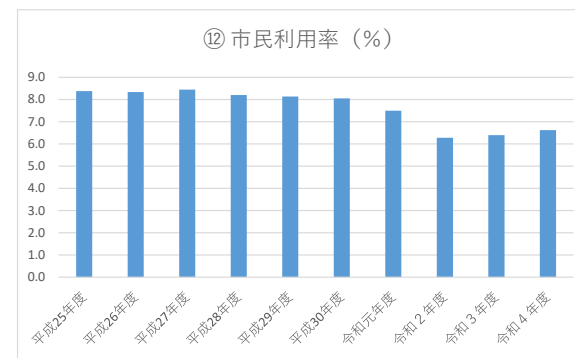
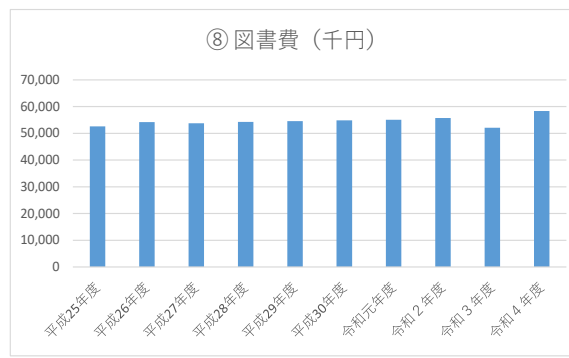
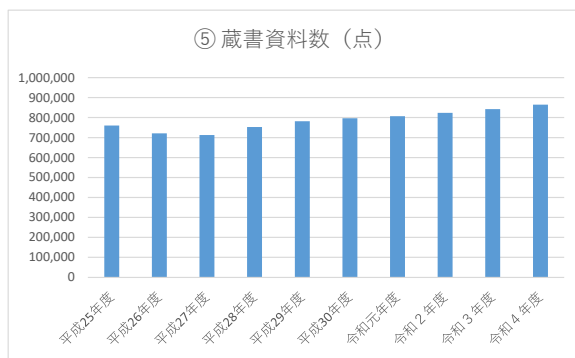
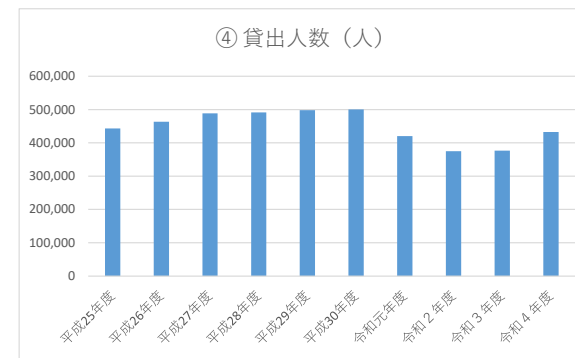
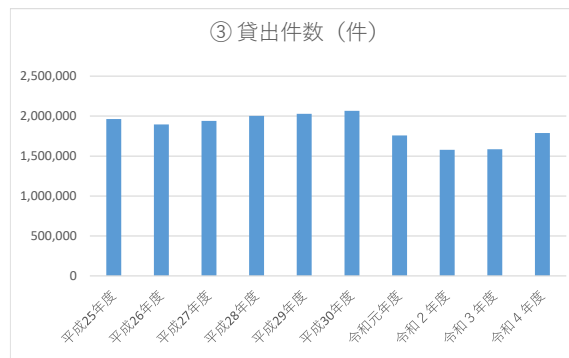
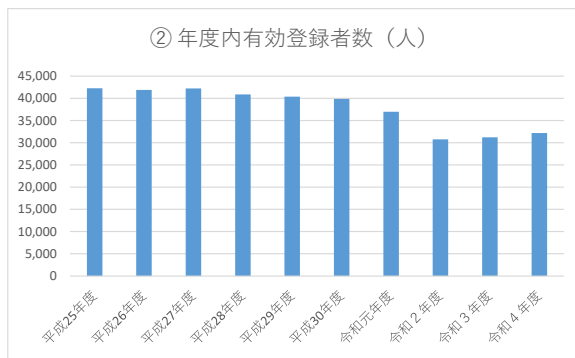


図 各種指標の推移 (②年度内有効登録者数・③貸出件数・④貸出人数・⑤蔵書資料数・⑧図書費・⑫市民利用率)

出典：『図書館年報』(平成25年度統計～令和4年度統計)

表 電子図書館の指標

年度	閲覧件数	貸出件数	貸出人数	新規登録	蔵書件数
令和3年度	528,737	221,926	111,573	31,115	46,991
(うち学校利用)	-	(187,339)	(92,983)	(26,765)	-
令和4年度	567,452	231,129	125,229	5,121	69,046
(うち学校利用)	-	(198,508)	(107,993)	(3,294)	-

出典：『図書館年報』（令和4年度統計）

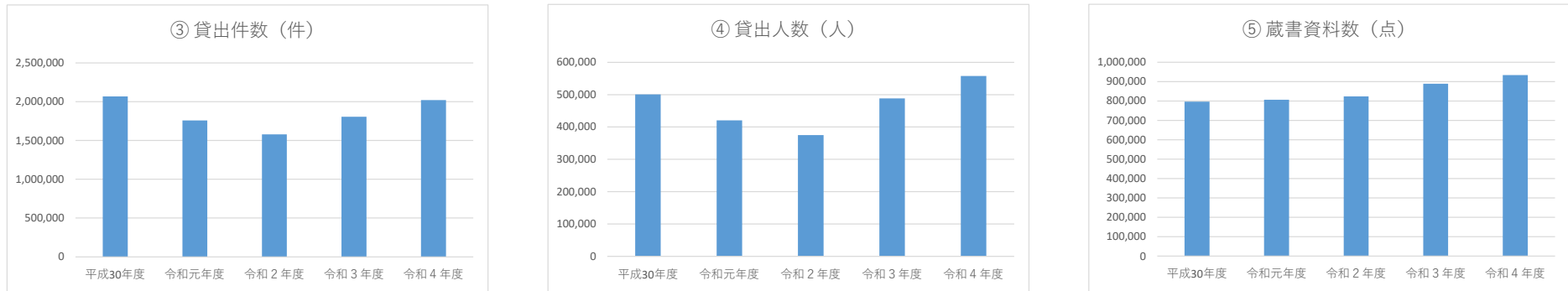


図 図書館各施設と電子図書館の指標推移 (③貸出件数・④貸出人数・⑤蔵書資料数)

出典：『図書館年報』（平成30年度統計～令和4年度統計）

表 各館の貸出件数の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
永和図書館	519,992	509,566	532,889	600,535	605,171	628,875	490,314	551,917	553,089	631,635
花園図書館	671,592	662,829	671,850	773,911	733,232	718,692	632,697	479,207	478,657	532,760
四条図書館	413,950	400,075	407,673	289,596	349,796	357,461	308,705	246,444	245,375	278,360
石切分室	54,985	54,613	53,910	76,011	75,044	74,486	64,928	59,257	65,576	71,424
大蓮分室	137,164	127,894	135,643	137,365	132,129	142,112	127,170	115,059	120,215	132,600
移動図書館	166,257	141,785	137,571	125,006	133,278	145,372	135,195	126,312	121,424	142,001
合計	1,963,940	1,896,762	1,939,536	2,002,424	2,028,650	2,066,998	1,759,009	1,578,196	1,584,336	1,788,780

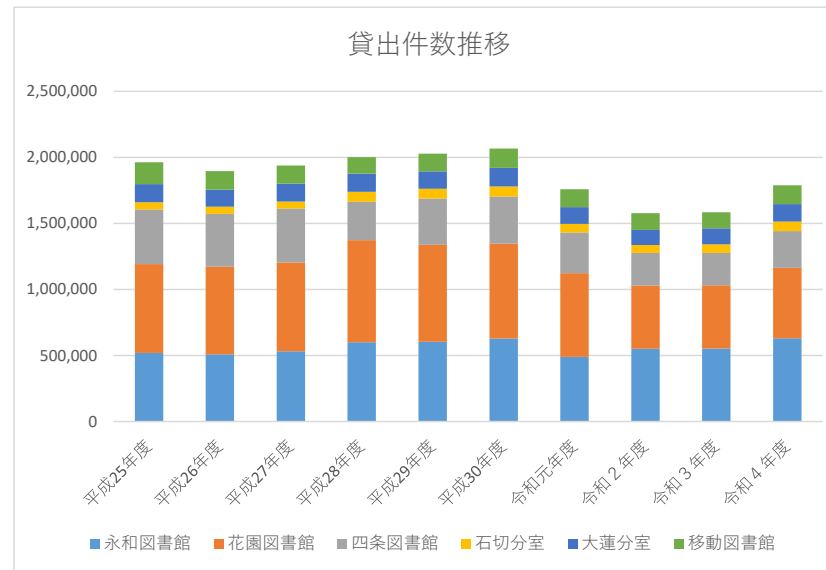


図 各館の貸出件数の推移

出典：『図書館年報』（平成25年度統計～令和4年度統計）

表 各館の貸出人数の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
永和図書館	126,354	132,679	143,405	161,708	166,657	173,163	133,887	145,387	148,860	172,409
花園図書館	150,164	159,468	166,125	180,661	167,201	160,072	140,383	104,851	103,607	118,218
四条図書館	108,111	108,867	113,678	82,143	98,003	97,076	84,053	67,675	67,110	77,226
石切分室	12,322	12,818	12,923	16,874	16,448	16,486	14,405	13,596	14,705	16,532
大蓮分室	26,521	25,849	28,017	26,048	24,673	25,763	23,256	21,416	22,307	25,601
移動図書館	19,784	23,945	24,747	24,303	25,381	28,003	24,279	22,067	20,066	22,600
合計	443,256	463,626	488,895	491,737	498,363	500,563	420,263	374,992	376,655	432,586

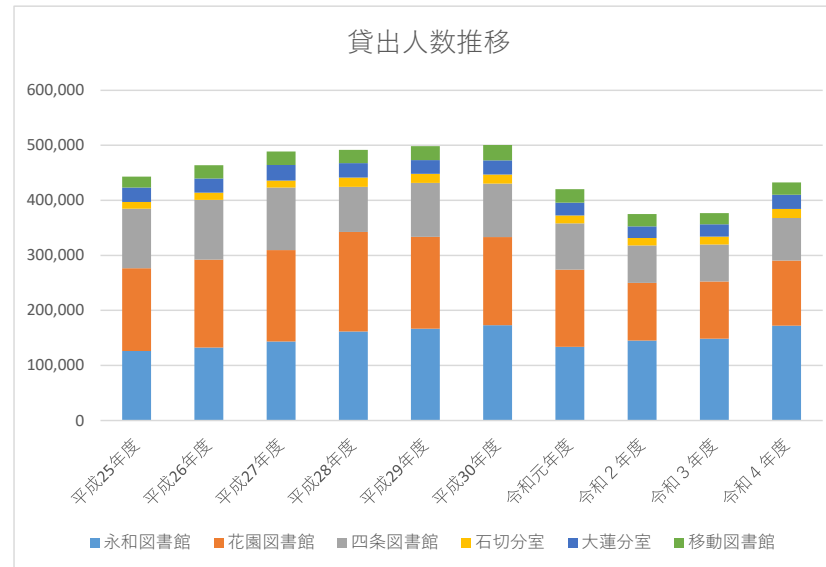


図 各館の貸出人数の推移

出典：『図書館年報』（平成25年度統計～令和4年度統計）

表 各館の登録者数の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
永和図書館	13,136	13,051	13,465	13,711	13,704	13,674	12,477	12,048	12,169	12,692
花園図書館	14,231	14,120	14,275	15,656	13,066	12,700	11,782	8,883	9,275	9,592
四条図書館	9,797	9,627	9,518	6,637	8,877	8,734	8,181	6,197	6,048	6,116
石切分室	962	933	942	1,231	1,016	999	965	740	814	859
大蓮分室	2,317	2,326	2,275	2,133	2,053	2,035	1,939	1,482	1,647	1,667
移動図書館	1,831	1,843	1,757	1,530	1,673	1,718	1,617	1,402	1,290	1,262
合計	42,274	41,900	42,232	40,898	40,389	39,860	36,961	30,752	31,243	32,188

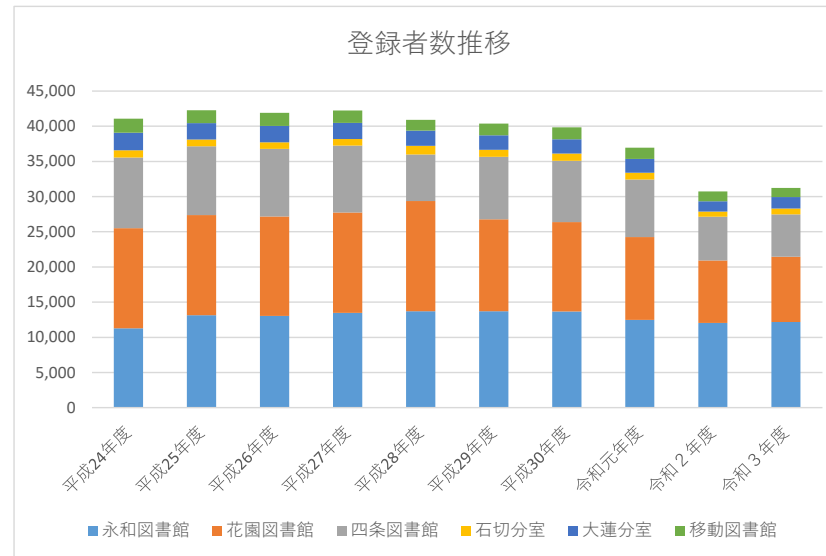


図 各館の登録者数の推移

出典：『図書館年報』（平成25年度統計～令和4年度統計）

2-3-4 蔵書数及び蔵書構成

令和4年度末時点の蔵書数は864,448点で、このうち児童書は273,689冊、視聴覚資料が18,463点です。

分類別では、一般書の分類のうち「9文学」が最も多く、47.7%を占めています。これは一般的な公共図書館と比較して非常に高い傾向にあります。

この傾向はこれまで利用者リクエストなどに積極的に応じてきたことも要因として考えられ、市民ニーズを適切に反映している一方、収集内容にやや偏りがみられる結果となっています。

郷土資料は花園図書館が最も多く、司馬遼太郎資料や行政関連資料等を保管しています。花園図書館ではその資料群を活かし、開架スペースには司馬遼太郎関連の書籍1,700点以上とともに、司馬氏直筆の原稿（複製版）や初版本なども展示しています。永和図書館には、塚本邦雄コーナー、慈雲尊者コーナー、四条図書館には、安岡正篤コーナーがあり、郷土資料を市民がいつでも手に取れるように、公開・保管しています。

各館の蔵書数については、当初、花園図書館が中央館としての役割を担っていたこともあり、花園図書館の蔵書が最も多くなっています。

今後新たに整備を予定している四条図書館は、現在約154,000点（視聴覚資料・雑誌を除いた場合は約144,000冊）を所蔵しています。現施設の収容能力は142,000冊であるため、蔵書数が収容能力を超え、施設の狭隘化が進んでいます。児童相談所との複合施設として新たに整備する際は、施設規模と蔵書数のバランスについて検討が必要です。

表 各館の蔵書構成

			永和図書館		花園図書館		四条図書館		石切分室		大蓮分室		移動図書館		合計	
			蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%	蔵書数	構成比%
一般書	0	総記	2,214	(2.0%)	6,251	(2.7%)	1,510	(1.6%)	125	(1.1%)	1,001	(1.7%)	104	(0.6%)	11,205	(2.1%)
	1	哲学	5,422	(4.8%)	11,806	(5.1%)	4,364	(4.6%)	403	(3.6%)	2,287	(3.8%)	471	(2.7%)	24,753	(4.7%)
	2	歴史	7,257	(6.4%)	17,267	(7.4%)	6,478	(6.9%)	599	(5.3%)	4,028	(6.7%)	663	(3.7%)	36,292	(6.9%)
	3	社会科学	12,856	(11.4%)	26,223	(11.3%)	10,425	(11.1%)	640	(5.7%)	5,654	(9.4%)	860	(4.9%)	56,658	(10.7%)
	4	自然科学	6,910	(6.1%)	13,008	(5.6%)	6,864	(7.3%)	782	(7.0%)	3,156	(5.2%)	964	(5.4%)	31,684	(6.0%)
	5	技術	10,241	(9.1%)	16,062	(6.9%)	9,125	(9.7%)	1,402	(12.5%)	5,523	(9.1%)	3,480	(19.6%)	45,833	(8.7%)
	6	産業	2,810	(2.5%)	6,712	(2.9%)	2,499	(2.7%)	273	(2.4%)	1,473	(2.4%)	408	(2.3%)	14,175	(2.7%)
	7	芸術	10,643	(9.5%)	17,545	(7.5%)	9,991	(10.6%)	1,298	(11.6%)	6,809	(11.3%)	2,636	(14.9%)	48,922	(9.3%)
	8	言語	1,644	(1.5%)	3,392	(1.5%)	1,344	(1.4%)	165	(1.5%)	640	(1.1%)	51	(0.3%)	7,236	(1.4%)
	9	文学	52,516	(46.7%)	114,654	(49.2%)	41,443	(44.1%)	5,523	(49.3%)	29,880	(49.4%)	8,081	(45.6%)	252,097	(47.7%)
	小計		112,513	66.3%	232,920	62.0%	94,043	60.8%	11,210	53.7%	60,451	54.1%	17,718	55.6%	528,855	61.2%
児童書	0	総記	441	(1.0%)	1,430	(1.2%)	400	(0.9%)	63	(0.7%)	235	(0.5%)	93	(0.7%)	2,662	(0.9%)
	1	哲学	519	(1.1%)	1,058	(0.9%)	504	(1.1%)	80	(0.9%)	322	(0.7%)	133	(1.0%)	2,616	(0.9%)
	2	歴史	1,578	(3.5%)	4,228	(3.4%)	1,623	(3.5%)	331	(3.6%)	1,721	(3.5%)	229	(1.7%)	9,710	(3.4%)
	3	社会科学	1,761	(3.9%)	3,705	(3.0%)	1,385	(3.0%)	288	(3.2%)	1,336	(2.7%)	209	(1.6%)	8,684	(3.0%)
	4	自然科学	3,127	(6.9%)	8,586	(7.0%)	3,386	(7.2%)	647	(7.1%)	2,818	(5.7%)	706	(5.4%)	19,270	(6.7%)
	5	技術	1,004	(2.2%)	2,866	(2.3%)	1,098	(2.3%)	200	(2.2%)	894	(1.8%)	289	(2.2%)	6,351	(2.2%)
	6	産業	676	(1.5%)	1,116	(0.9%)	373	(0.8%)	92	(1.0%)	509	(1.0%)	42	(0.3%)	2,808	(1.0%)
	7	芸術	6,158	(13.6%)	7,944	(6.5%)	4,464	(9.5%)	818	(9.0%)	4,662	(9.5%)	3,812	(28.9%)	27,858	(9.7%)
	8	言語	688	(1.5%)	2,097	(1.7%)	879	(1.9%)	150	(1.6%)	452	(0.9%)	151	(1.1%)	4,417	(1.5%)
	9	文学	11,544	(25.4%)	34,112	(27.8%)	12,097	(25.9%)	2,533	(27.9%)	18,063	(36.6%)	1,873	(14.2%)	80,222	(28.0%)
		絵本・紙芝居		17,894	(39.4%)	42,797	(34.9%)	20,555	(44.0%)	3,889	(42.8%)	18,309	(37.1%)	5,647	(42.8%)	109,091
	家庭文庫		0	(0.0%)	12,788	(10.4%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	12,788	(4.5%)
	小計		45,390	26.8%	122,727	32.7%	46,764	30.2%	9,091	43.6%	49,321	44.1%	13,184	41.3%	286,477	33.1%
雑誌			4,269	2.5%	3,051	0.8%	2,132	1.4%	423	2.0%	1,558	1.4%	989	3.1%	12,422	1.4%
ビデオ			0	0.0%	1,265	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1,265	0.1%
CD・カセットテープ			3,139	1.9%	6,794	1.8%	8,530	5.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	18,463	2.1%
録音図書（デージー）			652	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	652	0.1%
郷土・行政・郷土作家			3,629	2.1%	9,011	2.4%	3,147	2.0%	134	0.6%	390	0.3%	3	0.0%	16,314	1.9%
合計			169,592	-	375,768	-	154,616	-	20,858	-	111,720	-	31,894	-	864,448	-

出典：『図書館年報』（令和4年度統計）

※表中（ ）内のパーセンテージは、一般書、児童書、それぞれにおける各分類の割合を示す

表 各館の蔵書数推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平成25年度と 令和4年度の差
永和図書館	118,749	113,573	119,300	121,850	126,593	130,171	139,013	153,408	160,191	169,592	50,843
うち児童	32,892	33,949	32,380	33,693	34,894	36,819	38,360	41,030	42,931	45,390	12,498
うち視聴覚資料	1,485	1,581	1,853	2,093	2,336	2,575	3,263	3,493	3,682	3,139	1,654
花園図書館	380,828	380,964	370,311	381,880	391,698	387,091	378,771	370,395	370,305	375,768	-5,060
うち児童	91,678	91,906	90,975	114,545	119,245	123,016	118,891	119,990	120,854	109,939	18,261
うち視聴覚資料	4,860	4,901	6,624	6,857	7,114	7,291	7,547	7,781	7,967	6,794	1,934
四条図書館	127,016	104,765	99,672	107,784	118,511	126,900	136,083	144,811	152,203	154,616	27,600
うち児童	36,971	33,191	30,677	32,912	35,908	38,412	41,661	44,582	46,602	46,764	9,793
うち視聴覚資料	9,175	7,712	6,699	6,958	7,299	7,590	7,913	8,189	8,433	8,530	-645
石切分室	22,591	21,555	21,240	22,278	21,049	21,339	21,323	21,447	20,347	20,858	-1,733
うち児童	9,689	9,464	9,362	9,840	9,064	9,401	9,405	9,640	8,798	9,091	-598
うち視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大蓮分室	75,265	71,520	75,128	91,639	96,999	102,470	102,502	104,747	107,860	111,720	36,455
うち児童	43,351	42,273	44,905	45,065	45,008	46,794	46,361	47,080	47,990	49,321	5,970
うち視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移動図書館	36,130	28,439	27,391	27,181	27,362	28,742	29,043	29,215	31,537	31,894	-4,236
うち児童	16,255	12,175	11,424	11,308	11,238	12,160	12,438	12,394	13,065	13,184	-3,071
うち視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	760,579	720,816	713,042	752,612	782,212	796,713	806,735	824,023	842,443	864,448	103,869
うち児童	230,836	222,958	219,723	247,363	255,357	266,602	267,116	274,716	280,240	273,689	42,853
うち視聴覚資料	15,520	14,194	15,176	15,908	16,749	17,456	18,723	19,463	20,082	18,463	2,943

出典：『図書館年報』（平成25年度統計～令和4年度統計）

2-3-5 各サービス実施状況

東大阪市立図書館は、第一次構想に基づき、資料収集・収蔵などの図書館の基本サービスをはじめ、地域性を活かしたサービスや特定の属性・ニーズを持つ利用者へのサービスを実施しています。

基本サービスにおいては、資料の収集・収蔵、レファレンスなどのほか、館外での貸出・返却サービスなど利用者の利便性の向上にも努めています。

地域性を活かしたサービスでは、近隣の文化施設との連携や地域ゆかりの人物のコーナーの設置、ラグビーやモノづくりに関するイベントを実施するなど、様々な角度から市の特徴や地域の特性を活かしたサービスを実施しています。

特定の属性・ニーズを持つ利用者へのサービスでは、乳幼児～幼児及び子育て層、児童・生徒、社会人、高齢者・障害者を対象に実施しています。各世代に適切な情報を提供し、市民を生涯にわたってサポートすることを重視しながらサービスを展開しています。

表 主な実施サービス

項目	内容
基本サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・資料収集・収蔵 ・閲覧・貸出・予約・レファレンス等 ・団体貸出 ・電子図書館サービス ・館外での貸出・返却サービスの実施や返却ポストの設置 ・寄贈本の有効活用及びリサイクル譲渡会の実施
地域性を活かしたサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺聖子文学館との連携（書籍等特設コーナーの開設、貸出の実施） ・地域ゆかりの人物のコーナーの設置 ・近鉄ライナーズとの連携による講演会「ラグビー観戦入門講座」の実施 ・市内大学の図書館一覧リーフレットの作成、手続き方法の紹介 ・永和図書館でのモノづくりに特化した書架やワークショップの実施 等
特定の属性・ニーズを持つ利用者へのサービス	<p>【乳幼児・幼児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート、おはなし会などの読み聞かせイベント ・子どもが声を出せる時間「ベビータイム」の実施 <p>【学齢期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書連絡会への出席、研修や講演等によるサポート <p>【社会人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永和図書館におけるビジネス専門資料の所蔵（約 3,800 冊） ・ビジネス関連講座の実施 <p>【高齢者・障害者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大活字本、展示資料やデイジー図書の収集 ・ボランティアの協力による録音図書の作成（令和 4 年度に作成した録音図書一覧を図書館ウェブサイト上で公開） ・「バリアフリー図書」「シニア向け図書」コーナーの整備

2-3-6 第一次構想の進捗

第一次構想期間中には、先に述べた主なサービスの実施以外にも、貸出冊数の拡充や開館日の増加、開館時間の延長など、基本サービスのさらなる充実を図ってきました。そのほか、市立学校や介護施設等への団体貸出の実施や、郵送貸出サービス、ヒバリヤ書店での図書返却サービスなど、館外での利用促進サービスにも取り組んできました。

長年の課題事項であった「学校司書の配置」については、令和3年度に19名が配置され、学校連携としての取組を大きく前進させました。市立図書館としても、学校図書館の環境整備に取り組む学校司書に対し、学校司書連絡会等を通じてサポートしています。

これまで第一次構想に基づき各年度において重点的に取り組む施策を定めて事業を推進してきましたが、第一次構想の内容には、現時点で検討中や未実施となっている以下4つの施策も含まれています。

第二次構想では、これらの施策について現状を改めて整理し、今後のサービスについて再検討を行います。

【第一次構想における検討中・未実施の施策】

■移動図書館

移動図書館の運用は、『行財政改革プラン2020』の見直しの対象となり、一定のニーズがあるものの、車両の老朽化が進行し、運用の継続が課題となっています。

様々な検討と協議を行ってきましたが、車両を更新し運用を継続していくことが難しい状況です。アンケート調査においては移動図書館の新たな可能性を模索したうえで、市立図書館全体のサービスの方向性を定めます。

■街角図書館の普及促進

第一次構想では、市民がより身近で本を利用できる機会を増やすため、公共図書館以外の図書施設として、「家庭・地域文庫」等の街角図書館の普及促進をめざしていました。

第一次構想策定時に11文庫あった「家庭・地域文庫」は、ボランティアの人手不足や新型コロナウイルスまん延防止のため、令和5年6月時点で4文庫が運営中です。

こうした「家庭・地域文庫」の現状も踏まえ、今後の在り方や連携方法について検討します。

※学校との図書館システム連携についても進捗を記述予定です。

2-3-7 関連施設

■市の施設

市内には市立図書館（3館2分室）以外にも、市民が本に触れられる施設やサービスがあります。これらの施設やサービスとの連携・活用を進め、市民に本を届けています。

市立小中学校の学校図書館や、地域住民が通うリージョンセンターには図書室あるいは図書コーナーが設置されています。

令和3年11月にはリージョンセンターでの出張図書館を開始、令和4年7月には出張図書館にて図書館スタッフによる読み聞かせを開始しています。

■府立図書館

市内には、大阪府立中央図書館が市総合庁舎の隣に立地しています。府立図書館は、大阪市にある中之島図書館と合わせて資料約280万冊を所蔵しています。中央図書館は都道府県立図書館の中でも最も多くの資料を所蔵しており、公立図書館単館では日本一の蔵書数です。

■近隣自治体の図書館

近隣の自治体にもそれぞれの市立図書館があり、とくに大東市立中央図書館などは東大阪市との市境に隣接しており、市域北側に住む市民にとっても利用しやすい場所にあります。他にも近隣10市（八尾市・柏原市・大東市・大阪市・大阪狭山市・河内長野市・富田林市・羽曳野市・藤井寺市・松原市）と相互利用に関する協定を結んでおり、市境近くに住む市民や、市外に通勤する市民は、近くの市の図書館を利用することができます。

東大阪市の図書館にない資料については、購入あるいは他市の図書館や府立図書館、国立国会図書館の資料を取り寄せ、市民に提供しています。

■大学図書館

市内の大学には、それぞれに大学図書館があります。大学図書館は教育と研究のための図書館であり、公共図書館より多くの専門書や専門雑誌があり、大阪商業大学や大阪樟蔭大学など、市民に公開されている大学図書館もあります。大阪商業大学では市立図書館との相互貸借が可能です。

■その他の施設

市内には、図書館以外でもおはなし会や紙芝居など、子どもたちが本に触れる機会を増やす場所となる地域・家庭文庫があります。

司馬遼太郎記念館や田辺聖子文学館などの本に親しめる施設があります。さらに、令和元年に建設された東大阪市文化創造館にはまちライブラリーも設置され、文化芸術の活動

拠点となる施設内に本があり、貸出も行われています。カフェも併設しており、飲食しながら読書ができる空間も提供されています。

2-4 同規模自治体・望ましい基準との比較

2-4-1 望ましい基準との比較

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」との比較では、図書館数、延床面積、蔵書冊数などが基準に達しておらず、延べ床面積は 4,291 m²に対し、基準では 11,938 m²となっています。また、東大阪市では約 82 万冊を所蔵していますが、望ましい基準との差は約 38 万冊あり、基準との比較においては蔵書が不足している状況です。

しかし、「はじめに」で記載した通り、これまで市立図書館に関する長年の検討の中で、このことは幾度も議論されており、市内にある府立中央図書館他、他の図書館施設などの存在も鑑みながら評価をしていく必要があると考えられます。

一方、1 m²あたりの蔵書冊数は基準が 100 冊程度であるのに対し倍近くの 192 冊となっており、施設の中に多くの蔵書が収蔵されています。新しく整備された永和図書館などでは、以前よりも収容可能冊数を増やし、閲覧席や多目的なスペースを設けるなど限られた空間を有効的に活用していますが、市立図書館全体としては空間にゆとりがない状況であると言えます。

表 望ましい基準との比較

都道府県名	自治体名	人口(人)	図書館数(館)	延床面積(m ²)	蔵書冊数(冊)			1m ² あたりの冊数(冊)	年間購入冊数(冊)
					うち開架(冊)	開架率			
大阪府	東大阪市	485,928	3	4,291	826,043	507,336	61.4%	192.5	30,946
	望ましい基準 (30万人～)	398,923	6.8	11,938	1,204,852	722,808	60.0%	100.9	34,520
	望ましい基準との差	87,005	-4	-7,647	-378,809	-215,472	1.4pt	91.6	-3,574

都道府県名	自治体名	登録者数(人)		貸出数(冊)		予約件数(件)	予算額図書館費(千円)	予算額資料費(千円)	1人あたりの資料費(円)
		登録率		貸出密度					
大阪府	東大阪市	134,696	27.7%	1,584,336	3.26	479,606	410,000	65,633	135.1
	望ましい基準 (30万人～)	179,735	45.1%	3,453,701	8.7	773,391	558,183	74,546	18.7
	望ましい基準との差	-45,039	-17.3pt	-1,869,365	-5.40	-293,785	-148,183	-8,913	116.4

※上記「望ましい基準 (30万人～)」の数値は、日本図書館協会『貸出密度上位の公立図書館整備状況・2019』についてによる

※東大阪市の数値は『日本の図書館 2022』による

※登録者数は、『日本の図書館』への報告時点における図書館システム登録者数 (有効期間5年間)

2-4-2 同規模自治体との比較

人口が同規模の自治体との比較では、延床面積の同規模自治体平均値が 11,576 m²であり、東大阪市の延床面積が 4,291 m²と最も少ない状況です。また、蔵書冊数は平均よりも 30 万冊程度下回っています。

市立図書館としては 80 万冊の所蔵ですが、2-4-1 望ましい基準との比較で述べたとおり、市内には資料のある施設が多く立地しており、そのことも踏まえて、検討していく必要があります。

表 同規模人口自治体との比較 (40~60万人)

No.	都道府県名	自治体名	人口(人)	図書館数(館)	延床面積(m ²)	蔵書冊数(冊)			1人あたりの蔵書冊数(冊)	受入冊数(冊)		登録者数(人)		貸出数(冊)		予約件数(件)	予算額図書館費(千円)	予算額資料費(千円)	1人あたりの資料費(円)	
						順位	うち開架(冊)	開架率		うち購入(冊)	登録率	貸出密度								
1	大阪府	東大阪市	485,928	3	4,291	826,043	18	507,336	61.4%	1.7	32,233	30,946	134,696	27.7%	1,584,336	3.3	479,606	410,000	65,633	135.1
2	宮崎県	宮崎市	402,038	2	8,051	669,214	22	391,458	58.5%	1.7	14,385	13,169	210,098	52.3%	873,526	2.2	142,512	212,304	32,453	80.7
3	岐阜県	岐阜市	407,387	7	11,813	841,596	17	-	-	2.1	41,108	32,116	323,685	79.5%	1,960,636	4.8	367,892	489,461	79,276	194.6
4	大阪府	豊中市	409,396	9	13,525	966,894	15	751,459	77.7%	2.4	47,923	42,996	140,454	34.3%	3,146,812	7.7	1,040,625	430,134	80,136	195.7
5	長崎県	長崎市	411,505	1	12,078	1,265,887	8	877,228	69.3%	3.1	42,020	36,916	63,385	15.4%	1,465,081	3.6	370,784	619,580	78,780	191.4
6	富山県	富山市	414,102	25	13,047	1,043,877	13	586,371	56.2%	2.5	38,302	35,833	93,745	22.6%	1,689,298	4.1	506,012	621,350	87,287	210.8
7	愛知県	豊田市	422,225	2	12,921	1,683,455	1	985,226	58.5%	4.0	38,415	36,862	391,594	92.7%	2,858,546	6.8	353,742	744,827	90,000	213.2
8	香川県	高松市	426,260	5	13,960	1,195,431	10	694,552	58.1%	2.8	32,170	28,309	312,803	73.4%	2,505,112	5.9	353,308	426,796	61,785	144.9
9	千葉県	柏市	428,587	18	5,216	855,270	16	663,201	77.5%	2.0	30,289	28,318	66,411	15.5%	1,886,720	4.4	454,204	312,947	59,623	139.1
10	東京都	町田市	429,152	8	11,426	1,181,610	11	832,964	70.5%	2.8	34,012	20,601	464,342	108.2%	3,190,602	7.4	708,282	502,122	45,684	106.5
11	神奈川県	藤沢市	439,416	4	9,864	1,249,591	9	791,431	63.3%	2.8	44,940	17,426	115,276	26.2%	3,319,429	7.6	750,955	650,785	55,670	126.7
12	石川県	金沢市	451,018	6	24,955	1,654,281	3	689,925	41.7%	3.7	48,879	38,919	180,254	40.0%	2,216,089	4.9	382,275	642,058	116,920	259.2
13	兵庫県	尼崎市	462,820	2	7,205	748,751	21	332,263	44.4%	1.6	24,507	20,508	220,182	47.6%	1,434,288	3.1	245,369	247,786	37,033	80.0
14	広島県	福山市	466,863	7	10,355	1,145,162	12	743,360	64.9%	2.5	25,411	23,581	266,510	57.1%	1,906,783	4.1	601,797	316,344	64,067	137.2
15	大分県	大分市	478,463	2	7,043	809,244	19	604,572	74.7%	1.7	29,508	28,462	251,909	52.6%	1,412,912	3.0	179,111	320,780	53,397	111.6
16	岡山県	倉敷市	481,537	6	12,883	1,358,353	6	883,757	65.1%	2.8	53,918	43,305	370,341	76.9%	2,255,934	4.7	811,154	443,568	85,412	177.4
17	兵庫県	西宮市	484,204	4	10,358	1,040,922	14	738,366	70.9%	2.1	30,973	25,130	113,978	23.5%	3,311,639	6.8	1,021,857	674,900	65,786	135.9
18	千葉県	市川市	491,764	6	10,735	1,329,336	7	655,129	49.3%	2.7	38,112	29,989	86,016	17.5%	2,524,202	5.1	704,947	215,632	67,693	137.7
19	千葉県	松戸市	498,457	20	5,164	629,877	23	539,499	85.7%	1.3	47,341	45,345	273,929	55.0%	2,046,757	4.1	689,167	191,050	101,133	202.9
20	愛媛県	松山市	509,483	4	8,225	768,023	20	361,497	47.1%	1.5	22,869	18,606	313,170	61.5%	1,487,094	2.9	323,758	253,681	32,000	62.8
21	栃木県	宇都宮市	521,104	5	18,904	1,657,352	2	1,032,024	62.3%	3.2	55,130	48,675	143,533	27.5%	3,514,184	6.7	600,534	639,408	103,009	197.7
22	兵庫県	姫路市	534,127	15	16,729	1,387,227	4	982,886	70.9%	2.6	37,846	34,450	67,866	12.7%	1,881,665	3.5	553,454	473,254	90,324	169.1
23	東京都	八王子市	561,828	4	10,214	1,384,188	5	609,982	44.1%	2.5	29,789	25,123	115,591	20.6%	2,247,456	4.0	799,029	790,094	71,929	128.0
同規模人口22自治体の平均値			460,533	7	11,576	1,130,252	—	702,245	62.4%	2.5	36,720	30,665	208,412	45.3%	2,233,398	4.9	543,671	464,494	70,882	153.9
平均値との差			25,395	-4	-7,285	-304,209	—	-194,909	-1.0pt	-0.8	-4,487	281	-73,716	-17.5pt	-649,062	-1.6	-64,065	-54,494	-5,249	-18.8

※数値：『日本の図書館 2022』による

※図書館数や延床面積に分室や移動図書館は含まないが、蔵書冊数等の項目にはそれらの冊数も含む

※東大阪市の登録者数は、『日本の図書館』調査回答時点における図書館システム登録者数（有効期間5年）

3 市民ニーズの調査

※資料 1-3 をご参照ください。

3-1 アンケート調査

3-1-1 全体の実施概要

3-1-2 一般市民

3-1-3 子育て層

3-1-4 学校関係者（教職員）

3-1-5 学校関係者（児童・生徒）

3-1-6 就業者

4 課題と今後の検討事項

※課題のまとめ方については検討中の段階です。
 今後サービスを検討していくにあたり重要な課題は、表中の「◆」印がついている項目です。

2 構想の前提において整理した現状と、3 市民ニーズの調査で寄せられた意見をもとに、課題や今後の検討すべき事項をまとめます。これらを踏まえ、次章以降のコンセプト及びサービス方針を検討します。

表 2 構想の前提から得られる課題と今後の検討事項

章	項目	内容
2 構想の前提	2-1 東大阪市の概要	<ul style="list-style-type: none"> ラグビーのまち、モノづくりのまち、大学のまち、文化のまちなど、さらなる特色豊かな東大阪ならではの図書館づくりが求められる 若い世代が魅力を感じるサービスや子育て支援等についての検討が必要 高齢者が地域で元気に活動できる環境づくりを実現するサービスの検討
	2-2 上位計画・関連計画	<ul style="list-style-type: none"> 市の将来都市像である「つくる・つながる・ひびきあう」を市民が体感でき、それを支援するサービスの検討 子どもたちに様々な読書体験を提供できるサービスの検討が必要 児童相談所及び図書館整備に関する計画と整合を図り、四条図書館の方向性、複合施設内における相乗効果を生むサービスの検討が必要
	2-3-2 電子図書館	◆ 子どもたちの読書環境の充実にも大きく貢献しているサービスであるが、今後は多世代にわたり広く利用される方策が必要
	2-3-3 利用状況	◆ 市民利用率が6.6%と低く、利用率向上が大きな課題 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度末現在の電子図書館登録者数は令和4年度の図書館有効登録者数を超えており、電子図書館のさらなる利用の拡充だけでなく、図書館登録者数の増加も求められる
	2-3-4 蔵書数及び蔵書構成	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書構成に大きな偏りがみられることから、市民に広く様々な情報を提供するためのバランスの良い収集方法の再検討が必要 四条図書館の狭隘化により、複合施設整備の際は適切な施設規模と蔵書数のバランスについて検討が必要

2 構想の前提	2-3-5 各サービス実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 現在も実施している地域性を活かしたサービスの維持・拡充 ◆ 現在も実施している特定の属性・ニーズを持ち利用者へのサービスの維持・拡充
	2-3-6 第一次構想の進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行財政改革プラン 2020 の見直し対象となった移動図書館車両の今後についての検討 ・ 現在運営している家庭・地域文庫（4文庫）の継続的なサポートと、他施設も含めた連携の検討 ・ 様々な角度からの児童・生徒の読書環境の充実
	2-4 望ましい基準・同規模自治体との比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましい基準に対して㎡あたりの冊数が2倍近くあり、書架以外の滞在するためのスペースが不足している事への対策の検討 ◆ 同規模自治体に比べ施設規模や蔵書数等は少ないものの、府立図書館も含めた市内にある図書館関連施設との連携による市民への図書館サービス拡充等の検討

表 3 市民ニーズの調査から得られる課題と今後検討すべき点

章	項目	内容
3 市民ニーズの調査	3-1-2 一般市民	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 図書館利用者は70歳～50歳が多く、未利用者はそれ以下の世代や就業者が多い。若い世代や就業者の利用増加の方策が必要 ・ 図書館の立地や開館時間により利用できない方々への方策が必要 ◆ 電子図書館については10歳代が6割強の利用がある反面、全体では8割が電子図書館を利用したことが無く、多世代が活用するための方策が必要。また電子図書館について認知度が低いことが課題 ◆ これからの図書館サービスに対して意見の多い、飲食スペース等ニーズへの対策の検討が必要 ・ 移動図書館については日程、場所の認知度の低さや停車時間の短さが課題

章	項目	内容
3 市民 ニーズの 調査	3-1-3 子育て層	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが騒ぎそうで行きづらいという声が多い ・ 電子図書館の利用率は 26.4%と一般市民よりは高いものの、知らないという声も多く認知度の向上が望まれる ◆ これからの図書館サービスに対しては乳幼児・児童向けのイベントやカフェ等の飲食スペースのニーズが高く、方策の検討が必要 ・ 移動図書館については学校の近くへの停車へのニーズが高い ・ 使いやすい曜日・時間帯は休日が最も高く、充実して欲しいサービスで最も高い「おもちゃのある遊び場」といったニーズへの方策の検討が必要 ◆ 新しく出来る図書館について望むことに「子どもが声を出して遊べる」という意見が多い
	3-1-4 学校関係者 (児童・生徒)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館を使わない理由として、「調べ物はインターネットで調べる」が多い ◆ 電子図書館の利用率は 40.9%と高く、タブレットやスマートフォンで読めることを高く評価 ・ 電子図書館を利用することで 8 割以上が読書への興味向上に影響があったと回答しており、このことを活用した図書館そのものへの利用向上につなげる方策を検討することが望ましい ◆ これからの図書館サービスについてはコミック、Wi-Fi、カフェへの要望が高い ◆ 新しく出来る図書館について望むことに「明るくて居心地が良い」「勉強が出来る」「食べたり飲んだりしながら過ごせる」「友だちとおしゃべりできる」「ゲームが出来る場所」などの要望が高い
	3-1-5 学校関係者 (教職員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子図書館の導入により児童・生徒が「本を読む時間が増えた」との回答もあり、一定程度、読書への興味向上が伺えるものの、特に変わらないという意見も多く、今後の向上策が課題

章	項目	内容
3 市民 ニーズの 調査	3-1-6 就業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ステークホルダーの中で最も図書館利用が低く、理由として「忙しくて行く暇がない」「本や雑誌は購入して読んでいる」「情報はインターネットで得る」が高い傾向 ◆ 電子図書館の利用も最も低く、理由として「電子図書館を知らない」が最も高く認知度の向上が望まれる ・ 図書館を使いやすい曜日・時間帯は休日や平日夜間が最も高い ・ ビジネス支援で充実して欲しいサービスは「電源や Wi-Fi」「情報収集支援ツールの提供」「専門図書・資料の収集強化」が高い ◆ 新しく出来る図書館について望むこととして「明るく開放的で、居心地の良い空間」「気分転換・リフレッシュできる」「飲食しながら利用できる」の回答が多い